

6/21 朝版

# マイナカード他人に交付

## 同姓同名に混乱収まらず

マイナンバーを巡り二十日で初会見を開く。=関連

日、同姓同名の別人にマイナンバーカードを交付して使用された事案や、障害者手帳情報のひも付けミス、専用サイトでの不真値が新たに判明した。岸田文雄官相は関連データ、システムを秋までに総点検すると表明しているが、混乱は収束する様子が見えず、国民の不信感は高まっている。政府は対策を強化するため、デジタル庁、総務、厚生労働省を中心とする省庁横断の本部を設置し、二十一

③面、論説①面  
総務省は二十日、マイナ

カード普及策「マイナポイ

ント第二弾」で、別人への

ポイント付与が百三十一自

治体で百七十二件あったと

発表した。うち二件は自治

体が住民に同姓同名の別

人のカードを交付。受け取っ

ていた。

カードが誤交付される

と、本人に成り済まして悪

用されかねない。河野太郎

デジタル相は記者会見で「あつてはならないミスだ」と述べた。松本剛明総務相は「カードの交付事務が適切に行われる」とが重要だと話す。自治体に対する要請で、自治体に対策を求める書きを示した。

総務省は事案の詳細を明らかにしていない。誤交付は過去にも報告があったが総件数は未審査。他人によるカード利用が他にもあつたかどうかは不明という。

静岡県では、同姓同名の別のマイナンバーに、障害者手帳情報をひも付けするミスが六十一件確認された。カード取得者向けサイト「マイナボーナル」で不具合が発生し、十七・十九日に引っ越し手続きができなくなっていた」とも分かった。

一連の混乱は五月から表

二枚目カードでは、シス

テム不真値で別の証明書

金受取口座が、マイナンバ

ーとのひも付けミスもあつてマイナカードに一本化す

る政府方針の撤回、延期を求める声が強まっている。

しかし松野博一・官房長官は二十日の記者会見で「国民にやがて多くのメリットがある」と述べ、予定通り進めることを重ねて示した。